

第12期～軸をぶらさず頼れる産別をめざして～

みなさん、ご安全に。基幹労連は、9月7日～8日にかけて開催した第21回定期大会において第12期の運動方針を確認し、役員改選により新たな体制となりました。どうぞよろしくお願いいたします。また、大会1日目終了後には、大会へ出席された代議員・傍聴の皆さんに加え、厚生労働副大臣をはじめと多くのご来賓にご臨席をいただき、結成20周年記念祝賀会を開催しました。産業別労働組合として20周年を迎えられたのも、歴代役員、加盟組合・構成組織、県本部・県センターの皆さまのおかげです。心から感謝申し上げます。

第12期がスタートし、早1か月が過ぎました。10月に入り、運動方針をふまえた活動の具体化と推進に向け、各種会議・委員会等がはじまりました。これまでの経過や活動をふまえつつ、組合員とその家族の幸せ追及とFace to face職場原点という「軸」をぶらすことなく、産業別労働組合として求められる、そしてやるべき運動・活動をしつかりと意識し、徹底した議論と理解にもとづく運動を推進してまいります。

その運動の柱の一つである基幹労連政策の推進については、組織内議員「村田きょうこ」参議院議員は勿論のこと、国政フォーラム議員と連携し大臣要請や担当者折衝を通じて、その実現をめざします。そのようななか、前参議院議員の矢田稚子氏が内閣総理大臣補佐官に就任され、様々な報道がなされていますが、労働界での受け止めは9月28日の連合見解（連合のHPに掲載されてます）で示されたとおりです。政府・与党の思惑をはかり知ることはできませんが、就任後の記者会見で矢田氏は「自分が長く働いてきた経験や、生活者の視点も含めて、しっかりと政策に生かし、働く人の声を国政につなげたい」と言われました。働く者の立場・ものづくり産業を知る立場から、職場の声・実態を伝え、政策に反映されるよう期待したいと思います。

基幹労連政策の実現に向け、中央本部はもとより、すべての加盟組合・構成組織、県本部・県センター、26万組合員の総力を挙げ、一丸となって取り組みを推進していきましょう。ご安全に。

2023年10月6日

日本基幹産業労働組合連合会  
中央執行委員長 津村 正男

※追伸 第12期の委員長メッセージは不定期で発信します。